

今回の体育部報では、ご退職される先生方のお言葉を掲載いたします。今年度をもってご退職される先生方には、たいへんお世話になり、常に私たちの目指すべき道を照らしていただきました。

「二つのオリンピックから」

岡崎市立岡崎小学校

小田 昌男

自分が節目の年を迎える本年度、世界的なスポーツの祭典である夏季（東京）・冬季（北京）の両オリンピックが開催されました。二つのオリンピックは、体育の授業、体育的行事、部活動、各種大会のあり方について改めて深く考える機会となりました。

その一つが、校内外の体育的行事の企画・運営です。コロナ禍におけるオリンピック開催の有無、規模、参加者・関係者の健康・安全に関わる内容や判断は、私たち体育教師が携わる学校現場にも共通するものが数多くあります。子供たちや教職員の健康・安全に目を向ければ、コロナ対応を念頭に置き、熱中症対策も不可欠です。開催時期や日程に関して言えば、荒天への備えや準備が必要となります。ここ数年は、さまざまな面で改革が必要でした。そんな中、こうした課題に対して知恵を出し、柔軟かつ前向きに協力してくださったのが体育部の先生方です。常に子供たちの思いを尊重しながら、より良い方向へと物事を思考していく体育部の先生方は、本当に素晴らしく、頼もしく感じます。

もう一つは、体育や運動部活動の役割です。北京オリンピックでメダル獲得が期待されるスピードスケートの高木美帆選手、彼女は中学生のときにはサッカー部に所属し、北海道選抜として活躍しています。また、ダンスが好きで教室にも通っていたそうです。生涯スポーツを考えたとき、小中学生に大切なことは、学校体育や放課後活動の中で、さまざまな運動に挑戦し、バランスよく取り組むことだと思います。高木選手はいくつかのスポーツに取り組む中で、自分がさらに追求し、極めていきたいスポーツを見つけたのではないのでしょうか。つまり、子供たちの未来につながるスポーツライフの実現には、日々の体育授業、そして放課後部活動が重要な役割を担っていると思うのです。場づくりやルールを工夫し、個の能力に応じて楽しく学ぶことができる授業展開、限られた時間の中、量から質への転換を図りながら進める部活動指導、まさに体育部の先生方のしんしな取組が、子供たちに夢や感動を与えていくのだと思います。

これまでの皆さんの温かい励ましに深く感謝するとともに、ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



「美しい眺め」

岡崎市立緑丘小学校

鈴木 正子

子供たちとともに笑いたい、ともに励みたい、ともに泣きたい。子供たちの育ちに寄り添いたい。教師を志した私のこうした思いは今も変わることなく、その思いを胸に 40 年の教師生活を送ってきました。その中で、子供たちや同僚の輝く姿、数多くの「美しい眺め」を目にすることができた私は、幸せです。人と機会に恵まれたことに感謝します。

今年度、5月に予定されていた本校の「緑っ子 体育フェスティバル」は、コロナ禍のため 10月に延期されました。9月に練習が再開され、運動場にはさまざまな音楽と、子供たちの歓声や笑顔があふれました。迎えた本番。低学年の愛らしいダンス、中学年による「一天擣快」の力強い舞、そして、高学年の一糸乱れぬフラッグの演技が披露されました。子供たちの姿から、友と心を通わせながら精一杯に表現する喜びや、努力の結実である晴れ姿を家族に見せたいという気迫が手に取るように伝わってきました。その熱い気持ちが保護者にも伝わったのでしょうか、目に涙を浮かべる保護者も少なくありませんでした。中には、わざわざ「ありがとうございます。こんなによいものを見せていただきました」と声をかけてくださる方もみえました。このような親と子の心が響き合う美しい眺めに、胸の奥が熱くなるのを感じました。

この美しい眺めを生み出した原動力の中心は、本校の若い体育主任です。できる限り子供たちの願いををかなえようと、さまざまな提案をし、その実現に尽力しました。そこに、岡崎の体育部の先生方からの学びを感じました。コロナ禍にあっても「子供たちのために何とかしよう」とする労を惜しまぬ姿勢、培ってきた知恵を礎にしたさまざまな代案や工夫などから、その学びが伝わりました。具体的に相談にのったり、助言してくださったりした岡崎の体育部の方もいらしたのではないのでしょうか。岡崎の体育部のすばらしさを再認識しました。

私が岡崎の体育部に、どれだけ貢献できたか、はなはだ定かではありませんが、その一員として仕事ができることに感謝します。あわせて、部員お一人お一人の健勝をご祈念させていただきます。そして、岡崎の体育部のすばらしさがいつまでも続き、今後も岡崎の体育部の先生方と子供たちが紡ぐ美しい眺めが生まれ続けることを信じ、願っています。

「運動を通しての学び」

岡崎市立連尺小学校

小野 陽子

これまで充実した教員生活を送ることができたのは、体育部の先生方をはじめ、かかわり指導・支援してくださった多くの先生方、子供たちのおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

私は体育の教員でありながら家庭の事情もあり、中学校経験がありません。小学校に臨時免許で赴任し、そのまま今日まで小学校勤務をさせていただきました。岡崎の子供たちにどれだけ体力をつけ、運動の楽しさを体感させることができたかと今振り返るとふがいない気持ちでいっぱいになります。しかし、運動を通しての学びは多く、体育の授業、学校行事や部活動など身に付けさせたいことがたくさんあると常々感じてきました。自分は、たいして運動能力が高かったわけではありませんが、小中学校での運動を通して、苦難を乗り越える力、友達と競い合ったり喜びを分かち合ったりした経験、できないことができるようになった嬉しさを子供たちに伝えたく体育教師の道を選びました。小学校に勤務していると、転んでも手が付けずに頭部をけがしたり、低鉄棒から落ちて骨折をしたり、持久走では多くの見学者がいたり体力・気力のなさが招いている現状に遭遇します。その上ここ2年、コロナ禍で、多くの制限があり、運動が自由にできなくなっています。岡崎の子供たちには、運動を通して多くのことを身に付け学んでほしいと願っています。岡崎市の体育部の先生方の今後のご活躍を祈っております。